

須木村文化財調査報告書 第2集

須木村遺跡詳細
分布調査報告書

1994.3

宮崎県須木村教育委員会

序

須木村には、永い歴史に裏付けされた多くの史跡や文化財があります。

これらは、現在に生きる私達が祖先から預かり、将来へと引き継いでいかなければならない貴重なものです。

近年、本村においても各種の開発事業が実施されるのに伴い、開発と保護の調和をいかにはかるかが重要な課題となってまいりました。

今回の調査は、地下に埋もれている遺跡（埋蔵文化財）の範囲を明らかにするために、試掘調査及び地表観察による遺物採集を中心に実施いたしました。

この調査により、多くの貴重な資料の収集とともに上九瀬地区から内山地区に至るまでの村内全地区に縄文、弥生を中心とする古代の遺跡が分布していることが確認されました。しかし、今回の調査には限度があり、条件的には遺跡の存在が十分に考えられるにもかかわらず、栗園や荒地となっているために確認にいたらない遺跡が数多くあることが予想されます。

遺跡は、その性格上、一度破壊されると正確な調査は極めて困難となります。

今後とも、開発事業に当たっては、教育委員会と十分な協議をされることをお願いいたします。

本事業の実施にあたり、ご指導、ご援助をいただきました文化庁、県教育委員会に対し厚くお礼を申し上げます。

本報告書が、文化財保護思想啓発のための資料として役立つことを念願するとともに、村民各位の文化財保護行政に対するご理解とご協力をお願いいたします。

平成6年3月

須木村教育委員会

教育長 西 道 三 男

例 言

1. 本書は須木村教育委員会が平成4年度から5年度にかけて文化庁・宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した遺跡詳細分布調査の報告書ですが、県、村指定の文化財についても合わせて報告しています。
2. 本書に掲載された遺跡（埋蔵文化財）は、すべて文化財保護法にいう「周知の埋蔵文化財包蔵地」です。
3. 「周知の埋蔵文化財包蔵地」において、土木工事等を実施しようとする場合には、文化財保護法により「発掘に着手しようとする日の60日前までに文化庁長官に届け出る」必要がありますので、土木工事等の計画段階から須木村教育委員会生涯教育課（宮崎県西諸郡須木村大字中原1741-1・TEL0984-48-2266）ないし、宮崎県教育委員会文化課（宮崎県宮崎市橋通東1丁目9番10号・TEL0985-24-1111）へ事前に照会、協議するようにしてください。

また、国及び地方公共団体等が土木工事等を実施する場合には、土木工事等の通知書を提出することが必要です。
4. 指定文化財については、その指定地内等で開発事業を行う場合は、文化財保護法、宮崎県文化財保護条例、須木村文化財保護条例等に基づく現状変更許可申請を行い、事前に許可を得ることが必要です。
5. 埋蔵文化財は、地下に埋もれている性格上、現在、未発見で工事中発見される場合があります。その場合は、文化財保護法の規定により「その現状を変更することなく、遅滞なく文化庁長官へ届け出る」必要がありますので、工事等を計画する場合はなるべく事前に須木村教育委員会生涯教育課へ照会してください。
6. 本書及び埋蔵文化財に関する問い合わせは須木村教育委員会生涯教育課ないし宮崎県教育委員会文化課へお願いします。
7. 本書に掲載した地図は建設省国土地理院長の承認を得て同院発行の25,000分の1の地形図を複製したものです。

凡 例

1. 指定文化財指定地の範囲については  で、埋蔵文化財包蔵地（以下「遺跡」）の範囲については  で示している。点として所在する指定文化財，また古墳等で一基単独で所在するものについては ● で表示している。
2. 指定文化財の名称は指定の際の名称である。
3. 遺跡名は，原則としてその場所の小字名で命名したが，一部については，その地域での通称によった。
4. 地図上の「遺跡番号」は，すべて地名表のそれと一致する。
5. 「遺跡番号」は，大字で区分し，100番台は鳥田町，200番台は中原，300番台は下田，400番台は奈佐木，500番台は内山とした。
6. 遺跡等の所在地は，小字まで標記したが，詳細については須木村教育委員会生涯教育課及び宮崎県教育委員会文化課へ問い合わせられたい。
7. 調査の組織

調 査 主 体	須木村教育委員会
	教 育 長 西 道 三 男
	教 育 総 務 課 長 岩 下 武 史
	派遣社会教育主事 佐 野 晃 一
	社会教育指導員 森 山 泰 雄
	主 事 真 崎 勝 男
席 務 担 当	主 幹 龍 神 豊 美
調 査 担 当	生涯教育係長 椎 屋 芳 樹
調 査 補 助	吉 本 タツ子
〃	宮 田 ユキミ
調 査 指 導	県文化課埋蔵文化財第二係長 面 高 哲 郎

目 次

I. 指定文化財地名表	1
II. 埋蔵文化財包蔵地地名表	5
1) 鳥田町地区	7
2) 中原地区	8
3) 下田地区	9
4) 奈佐木地区	10
5) 内山地区	11
III. 確認調査概要（須木城跡・大年谷遺跡）	13

I. 指定文化財地名表

目 录

楚辞集卷之二

指 定 文 化 財

文化財 番 号	文化財の名称	所 在 地	種 別	指 定	指定年月日
1	須 ^す 木 ^き 村 ^{そん} 古 ^こ 墳 ^{ぼん}	大字中原字上の原	古 墳	県	昭和9年4月17日
2	須 ^す 木 ^き の ^の 滝 ^{たき}	大字下田字鶴園	名 勝	県	昭和8年12月5日
3	米 ^め 良 ^ら 筑 ^{ちく} 後 ^ご 守 ^{のかみ} の ^の 墓 ^{はか}	大字下田字坂の下	史 跡	村	昭和49年11月1日

II. 埋蔵文化財包蔵地地名表

鳥田町地区	101～
中原地区	201～
下田地区	301～
奈佐木地区	401～
内山地区	501～

※番号は地図の番号と一致している。

漢文書寫與時空分文類別 Ⅱ

101 對歐陽修書

102 對蘇軾書

103 對蘇軾手札

104 對歐陽修書

105 對蘇軾書

大字鳥田町（101～）

遺跡番号	遺跡名称	所在地	時代	種別	備考
101	山之口遺跡	大字鳥田字山之口	不詳	散布地	
102	牧谷遺跡	大字鳥田字山之口	縄文	〃	
103	小崎谷第1遺跡	大字鳥田字神上	〃	〃	
104	小崎谷第2遺跡	大字鳥田字神上	〃	〃	
105	中村遺跡	大字鳥田字中村	不詳	〃	
106	鳥越遺跡	大字鳥田字鳥越	近世	〃	
107	古屋敷遺跡	大字鳥田字古屋敷	弥生	〃	
108	八重尾谷遺跡	大字鳥田字八重尾谷	不詳	〃	
109	城ヶ尾遺跡	大字鳥田字古屋敷	縄文	〃	
110	松尾遺跡	大字鳥田字松尾	〃	〃	
111	中藪遺跡	大字鳥田字中藪	平安	〃	
112	白坂遺跡	大字鳥田字白坂	縄文	〃	
113	吐合遺跡	大字鳥田字吐合	〃	〃	
114	桑原谷遺跡	大字鳥田字吐合	〃	〃	
115	堂屋敷下遺跡	大字鳥田字堂屋敷	〃	〃	
116	堂屋敷中遺跡	大字鳥田字堂屋敷	〃	〃	
117	薬師下遺跡	大字鳥田字堂屋敷	〃	〃	
118	薬師上遺跡	大字鳥田字堂屋敷	〃	〃	
119	堂屋敷上遺跡	大字鳥田字堂屋敷	〃	〃	

大字中原（201～）

遺跡番号	遺跡名称	所在地	時代	種別	備考
201	川内山遺跡	大字中原字川内	不詳	散布地	
202	川内遺跡	大字中原字川内	中世	〃	
203	冷み水遺跡	大字中原字冷水	〃	〃	
204	富永遺跡	大字中原字富永	〃	〃	
205	修行谷遺跡	大字中原字富永	〃	包蔵地	
206	岩船遺跡	大字中原字岩船	平安	散布地	
207	小城遺跡	大字中原字重永	中世	城館跡	
208	上床第1遺跡	大字中原字上床	縄文	包蔵地	
209	上床第2遺跡	大字中原字上床	〃	散布地	
210	上床第3遺跡	大字中原字上床	縄文～中世	包蔵地	
211	下ノ原遺跡	大字中原字下ノ原	〃	散布地	
212	上ノ原遺跡	大字中原字下ノ原	〃	〃	
213	宮地遺跡	大字中原字宮地	弥生	〃	
214	大年谷遺跡	大字中原字上ノ原	縄文～古墳	〃	調査
215	木場屋敷遺跡	大字中原字木場屋敷	弥生	〃	
216	田代八重遺跡	大字中原字田代八重	縄文～近世	〃	調査

大字下田（301～）

遺跡番号	遺跡名称	所在地	時代	種別	備考
301	いくま ^{だに} 軍谷第1遺跡	大字下田字軍谷	縄文～近世	散布地	
302	いくま ^{だに} 軍谷第2遺跡	大字下田字軍谷	縄文～中世	ク	
303	いくま ^{だに} 軍谷第3遺跡	大字下田字軍谷	縄文～弥生	ク	
304	やま ^{みや} 山宮遺跡	大字下田字軍谷	弥生～古墳	ク	
305	なが ^た 永田遺跡	大字下田字下永田	縄文～中世	ク	試掘調査
306	お ^{どの} 尾殿第1遺跡	大字下田字尾殿	中世	ク	
307	お ^{どの} 尾殿第2遺跡	大字下田字尾殿	弥生～中世	ク	
308	お ^{どの} 尾殿第3遺跡	大字下田字尾殿	弥生～古墳	ク	
309	かた ^じ 片地遺跡	大字下田字片地	縄文～中世	ク	
310	にし ^{また} 西俣遺跡	大字下田字片地	縄文	包蔵地	
311	つる ^{ぞの} 鶴園遺跡	大字下田字片地	ク	散布地	
312	す ^{きじょうあ} 須木城跡遺跡	大字下田字唐池	中世	城館跡	試掘調査
313	から ^{いけ} 唐池遺跡	大字下田字唐池	縄文～中世	散布地	
314	かもと ^{うえ ばる} 麓上原遺跡	大字下田字唐池	中世	ク	調査
315	おもて ^て 表遺跡	大字下田字表	ク	ク	
316	うえ ^{ちよう だに} 上長谷遺跡	大字下田字上長谷	縄文	ク	調査

大字奈佐木（401～）

遺跡番号	遺跡名称	所在地	時代	種別	備考
401	払谷遺跡	大字奈佐木字払谷	縄文	散布地	
402	峠谷第1遺跡	大字奈佐木字峠谷	〃	〃	
403	峠谷第2遺跡	大字奈佐木字峠谷	〃	〃	
404	猫坂第1遺跡	大字奈佐木字猫坂	〃	〃	
405	猫坂第2遺跡	大字奈佐木字猫坂	中世	〃	
406	小妻木遺跡	大字奈佐木字小妻木	縄文	〃	試掘調査
407	権現谷遺跡	大字奈佐木字払谷	〃	〃	
408	上ノ原第1遺跡	大字奈佐木字日平	〃	〃	
409	上ノ原第2遺跡	大字奈佐木字日平	平安	〃	
410	日平遺跡	大字奈佐木字日平	中世	〃	
411	鳥越第1遺跡	大字奈佐木字日平	縄文	〃	
412	鳥越第2遺跡	大字奈佐木字日平	縄文～近世	〃	
413	上奈佐木第1遺跡	大字奈佐木字横谷	縄文	〃	
414	上奈佐木第2遺跡	大字奈佐木字横谷	〃	〃	
415	永迫遺跡	大字奈佐木字永迫	〃	〃	

416 奈佐木城跡

中世 城跡 調査

大字内山（501～）

遺跡番号	遺跡名称	所在地	時代	種別	備考
501	須志原第1遺跡	大字内山字須志原	縄文	散布地	
502	須志原第2遺跡	大字内山字須志原	〃	〃	
503	須志原第3遺跡	大字内山字須志原	〃	〃	
504	須志原第4遺跡	大字内山字須志原	〃	〃	
505	神原遺跡	大字内山字神原	弥生	〃	
506	上原第1遺跡	大字内山字上ノ原	縄文	〃	
507	上原第2遺跡	大字内山字上ノ原	〃	〃	
508	上原第3遺跡	大字内山字上ノ原	弥生～平安	〃	
509	内山城跡遺跡	大字内山字向江	中世	城館跡	
510	堂坂遺跡	大字内山字鶴原	弥生	散布地	
511	田ノ上遺跡	大字内山字鶴原	縄文～平安	〃	
512	松の畑第1遺跡	大字内山字鶴原	縄文	〃	
513	松の畑第2遺跡	大字内山字鶴原	平安	〃	
514	松の畑第3遺跡	大字内山字鶴原	縄文	〃	
515	鶴原第1遺跡	大字内山字鶴原	縄文～弥生	〃	
516	鶴原第2遺跡	大字内山字鶴原	平安	〃	
517	楠ノ木谷第1遺跡	大字内山字長谷原	縄文～平安	〃	
518	楠ノ木谷第2遺跡	大字内山字長谷原	平安	〃	
519	開拓第1遺跡	大字内山字長谷原	弥生	〃	
520	開拓第2遺跡	大字内山字長谷原	縄文	〃	
521	長谷原第1遺跡	大字内山字長谷原	縄文～平安	〃	
522	長谷原第2遺跡	大字内山字長谷原	縄文	〃	
523	長谷原第3遺跡	大字内山字長谷原	縄文～平安	〃	
524	七ツ山遺跡	大字内山字七ツ山	縄文～中世	〃	

Ⅲ. 確認調査概要（須木城跡・大年谷遺跡）

(續前頁) 大(續前木) 著 查閱 初 用

須木城跡

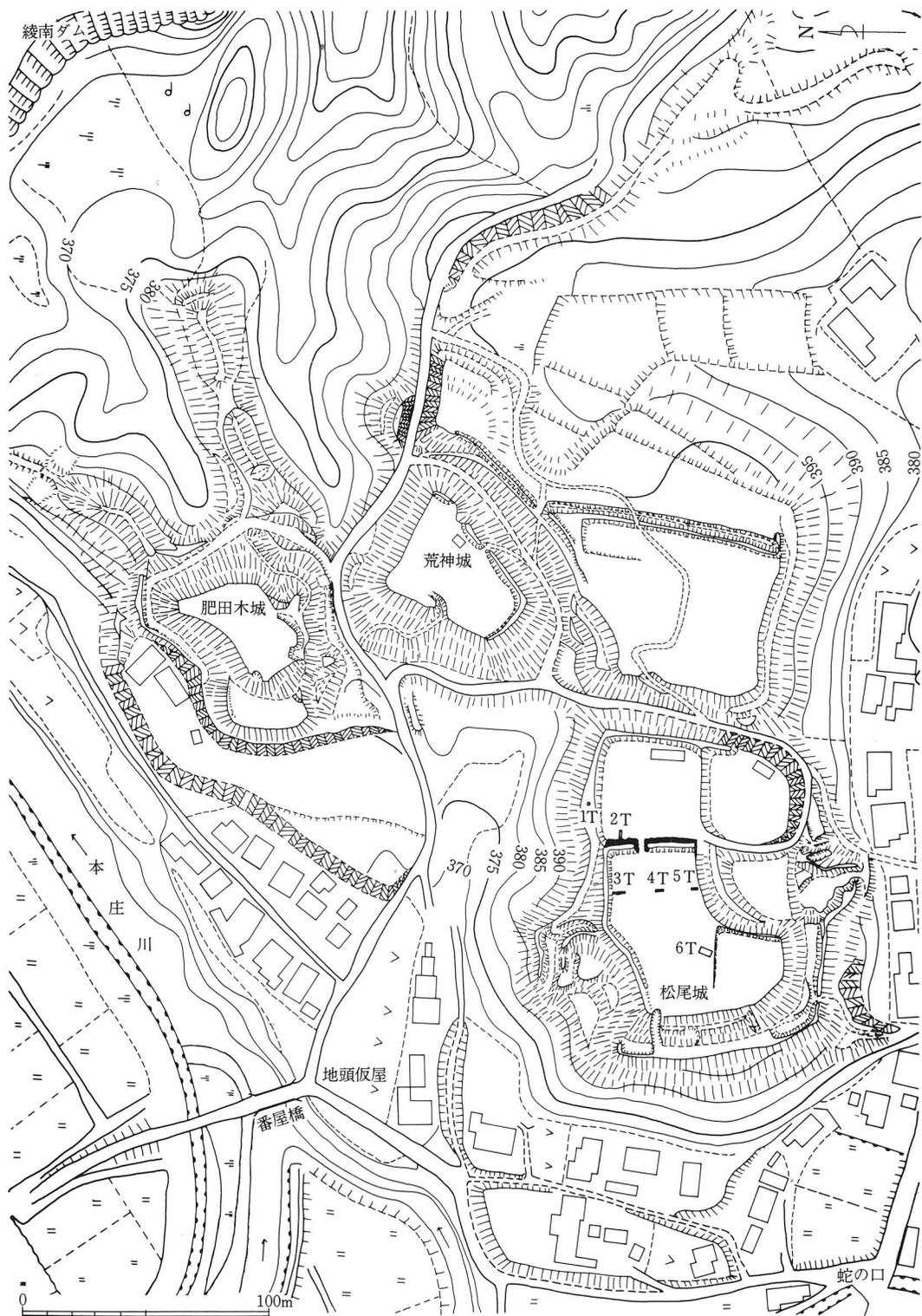
1. 城跡の位置と調査に至る経緯

須木城跡は、須木盆地の南、北へ突出した丘陵の突端に築城されている。丘陵上の標高は約400mで周辺水田との比高差は40mほどであり、城跡の北眼下には本庄川が東流している。須木城跡は、丘陵を巨大な堀切り等で各々を独立させて4か所の曲輪を形成している。4か所の曲輪の中で3か所については、「肥田木城」「荒神城」「松尾城」と呼称されており、レベル的には「松尾城」が最も高所に位置している。八巻孝夫氏は、もっとも広く一部石垣が見られる「松尾城」は居住地としての城、北端の「肥田木城」は、高さや防御の厳重さから詰の曲輪と考えている。

村からは活性化の一環として「松尾城」跡の一角に鐘撞き堂を建設することについて村教育委員会へ照会があった。教育委員会では城の一部は影響を受けているが、全体的にはよく残り、周辺の地名等から当時の政治支配の地として貴重な遺跡であったことなどから、遺構の遺存状況の確認のための調査を平成3年11月30日から12月1日まで実施した。確認調査の結果、遺構の遺存状態が良好であったので、協議の結果、鐘撞き堂建設については場所が変更されることとなった。

2. 調査の概要

調査はトレンチ法で実施した。当地の基本層序は、第Ⅰ層表土、第Ⅱ層スコリアを含む黒色土、第Ⅲ層黒色土、第Ⅳ層アカホヤ、第Ⅴ層暗褐色土、第Ⅵ層暗褐色のブロック土のはいる黒褐色土、第Ⅶ層黒褐色土、第Ⅷ層小林ボラ、第Ⅸ層赤褐色斑のある黄褐色土、第Ⅹ層黄褐色土となっている。1 Tは土塁状の高まりの部分で鐘撞き堂建設予定地でもある。表土下でアカホヤのブロック土が見られ盛土であることが確認され、城に伴う土塁と判断される。2 Tは石垣の基底部の確認を目的とした。トレンチ東半部については、弓道場建設のため造成の際の攪乱が見られる。石垣の基底部は第Ⅶ層黒褐色土となっており、城築造時の造成で第Ⅵ層上位は消滅している。3 Tから5 Tは城築造時の造成状況の確認を目的とした。表土下の層は、3 Tでは第Ⅴ層暗褐色土、4 Tでは第Ⅳ層アカホヤ、5 Tでは盛土が確認された。このことから、当平坦部は南面する斜面を造成により平坦部としていることがわかる。3 Tではピットが数個検出され、また、4 Tでもアカホヤ面で径25cm程のピットが1個検出され、輸入陶磁器染付が出土している。5 Tでは遺構は検出されていないが、輸入陶磁器染付・青磁が出土している。3 T北に土塁確認のため3 T'を設定した。その結果、土塁の表面には板状の石が水平に積まれていることが確認されたが、その左右についてもボーリングにより石の存在を確認している。6 Tは、遺構の所在状況確認のためトレンチは幅広とした。表土下に第Ⅲ層黒色土も遺存している。アカホヤ面でピットが多数検出され、土師器皿片等の外縄文後期の土器片も出土している。3～6 Tを設定した平坦部については、極めて遺構等の遺存が良好であることが判明した。



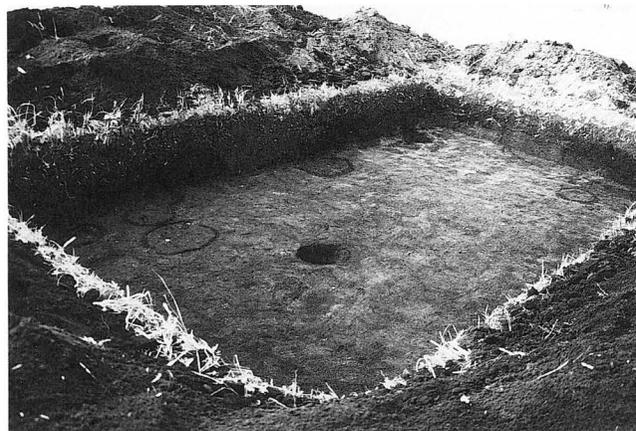
第1図 須木城跡縄張り図とトレンチ配置図（八巻孝夫氏作成：周辺地形等一部改変）



第2トレンチ
(東から)



第3,3'トレンチ
(南から)



第6トレンチ
(南東から)

大年谷遺跡

1. 遺跡の位置と調査に至る経緯

遺跡は、須木村役場の南100m、山の裾近くの標高約401mの狭い舌状の南面する尾根上に立地する。尾根の南側は急傾斜であるが、北についてはやや緩やかな斜面となっている。遺跡の北150mの緩斜面には古墳時代の地下式横穴墓群が所在し、その間の谷には水量は少ないが湧水がある。遺跡の所在については、平成2年度の「21世紀長寿村づくり事業」に伴う試掘調査で確認された。当造成工事にかかる部分について平成3年1月に発掘調査が実施され、縄文早期の集石遺構4基・焼石群4か所、古墳時代の竪穴住居跡1軒が検出されている。

造成工事は発掘調査後実施されたが、その後の計画変更でさらに敷地を拡張することとなり、平成5年11月村教育委員会に拡張部分における遺跡の広がり状況について照会があり、教育委員会で試掘調査を実施することになった。調査は平成5年11月30日に実施し、縄文早期の包含層が広がることを確認した。拡張部分の発掘調査は、平成6年1月に実施されている。

2. 調査の概要

調査は、平成3年1月に調査された尾根上の隣接地に4か所のトレンチを設定して実施した。当地の基本層序は、第Ⅰ層表土、第Ⅱ層黒色土、第Ⅲ層アカホヤ、第Ⅳ層黒褐色土、第Ⅴ層暗褐色土、第Ⅵ層黄褐色土となっている。各トレンチでは基本層序がみられるなど土層の残存状況は極めて良好である。遺構は3Tの第Ⅴ層暗褐色土上層で集石遺構らしい焼石のまとまりが検出された。遺物は3Tで黒曜石製の石鏃、4Tで土器小片が出土したほか、各トレンチからも第Ⅴ層暗褐色土上層で焼石、チャート片、黒曜石片等が出土している。

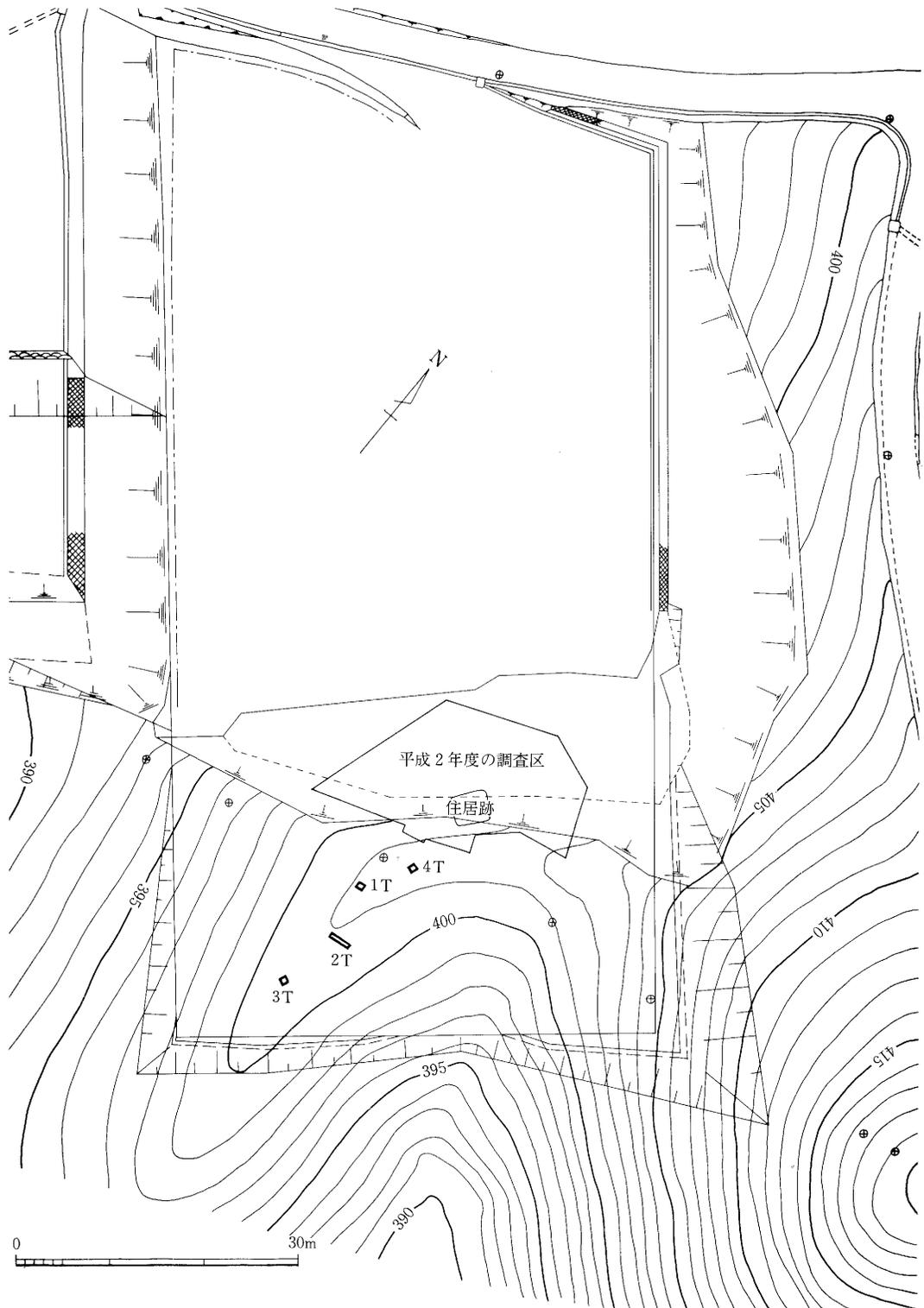
なお、平成3年の発掘調査では古墳時代の竪穴住居跡が検出されていたので、第Ⅱ層黒色土での同時代の遺物の出土に注意していたが、今回の調査ではまったく出土していない。



遺跡の近景（北東より）



第3トレンチ焼石出土状況



第2図 大年谷遺跡トレンチ配置図

須木村文化財調査報告書 第2集

須木村遺跡詳細分布調査報告書

発行日 平成6年3月31日

発行 須木村教育委員会

印刷 富士マイクロ株式会社

熊本県
多良木町

須木村遺跡分布図

須木村教育委員会 1994.3

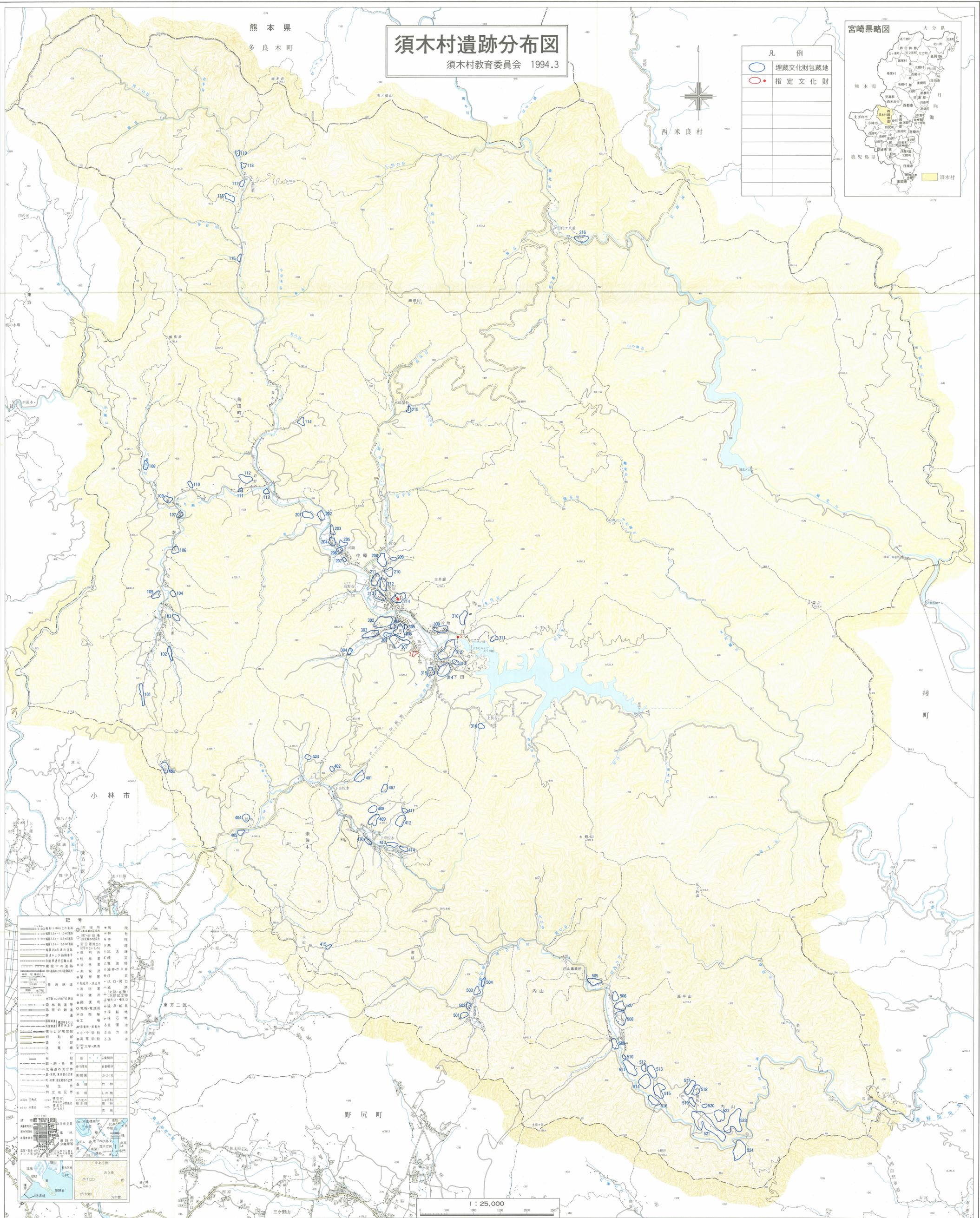


凡例

	埋蔵文化財包蔵地
	指定文化財



西米良村



記号

	国道110号
	県道110号1号線
	県道110号2号線
	県道110号3号線
	県道110号4号線
	県道110号5号線
	県道110号6号線
	県道110号7号線
	県道110号8号線
	県道110号9号線
	県道110号10号線
	県道110号11号線
	県道110号12号線
	県道110号13号線
	県道110号14号線
	県道110号15号線
	県道110号16号線
	県道110号17号線
	県道110号18号線
	県道110号19号線
	県道110号20号線
	県道110号21号線
	県道110号22号線
	県道110号23号線
	県道110号24号線
	県道110号25号線
	県道110号26号線
	県道110号27号線
	県道110号28号線
	県道110号29号線
	県道110号30号線
	県道110号31号線
	県道110号32号線
	県道110号33号線
	県道110号34号線
	県道110号35号線
	県道110号36号線
	県道110号37号線
	県道110号38号線
	県道110号39号線
	県道110号40号線
	県道110号41号線
	県道110号42号線
	県道110号43号線
	県道110号44号線
	県道110号45号線
	県道110号46号線
	県道110号47号線
	県道110号48号線
	県道110号49号線
	県道110号50号線
	県道110号51号線
	県道110号52号線
	県道110号53号線
	県道110号54号線
	県道110号55号線
	県道110号56号線
	県道110号57号線
	県道110号58号線
	県道110号59号線
	県道110号60号線
	県道110号61号線
	県道110号62号線
	県道110号63号線
	県道110号64号線
	県道110号65号線
	県道110号66号線
	県道110号67号線
	県道110号68号線
	県道110号69号線
	県道110号70号線
	県道110号71号線
	県道110号72号線
	県道110号73号線
	県道110号74号線
	県道110号75号線
	県道110号76号線
	県道110号77号線
	県道110号78号線
	県道110号79号線
	県道110号80号線
	県道110号81号線
	県道110号82号線
	県道110号83号線
	県道110号84号線
	県道110号85号線
	県道110号86号線
	県道110号87号線
	県道110号88号線
	県道110号89号線
	県道110号90号線
	県道110号91号線
	県道110号92号線
	県道110号93号線
	県道110号94号線
	県道110号95号線
	県道110号96号線
	県道110号97号線
	県道110号98号線
	県道110号99号線
	県道110号100号線

1 : 25,000

この地図は、建設省国土院の委託を受けて、同院発行の2万5千分の1地形図を縮小したものである。(学図番号)昭和十九第133号

